



京大広報

No. 558

2001 6

目次

大学の動き

- 第2回運営諮問会議開催.....1094
- 国際融合創造センターの設置.....1095

部局の動き

- 防災研究所創立50周年記念式典・祝賀会.....1096

- 日誌1097

栄誉

- 本席 佑医学研究科教授が
米国科学アカデミー外国人会員に選ばれる...1097

- 訃報1098

随想

- コミュニティ・カレッジ
米国高等教育の一翼を担う
名誉教授 渡部 良久.....1098

お知らせ

- 「総合体育館附設プール」の夏季利用.....1099
- 「白馬山の家」の夏季開設.....1100
- 「白浜海の家」の利用.....1100
- 総合博物館一般公開始まる.....1101

公開講座

- 理学研究科数学教室公開講座
現代数学展望.....1101
- 工学部公開講座
21世紀の暮らしと科学技術
ナノテクノロジーと地震工学1102
- 数理解析研究所数学入門公開講座.....1102



総合博物館熱帯雨林のジオラマ

関連記事本文1101ページ

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

大学の動き

第2回運営諮問会議開催

第2回運営諮問会議が2月6日(火)に総長室において、井村裕夫委員長、荒巻禎一委員、大南正瑛委員、大西正文委員、館 糾委員、中川久定委員、中坊公平委員、中村桂子委員の出席のもと、開催された。

運営諮問会議の目的

運営諮問会議は、国立学校設置法第7条の2に基づき、平成12年4月から各国立大学に設置され、各界の有識者に委員を依頼し、大学の運営に関する重要事項について総長の諮問に応じて審議し、総長に対して助言又は勧告を行い、大学の運営の改善・発展に資することを目的としている。

運営諮問会議委員

青木 昌彦	スタンフォード大学経済学部教授
荒巻 禎一	京都府知事
稲盛 和夫	京セラ(株)名誉会長・京都商工会議所名誉会頭
井村 裕夫	総合科学技術会議議員
大西 正文	大阪ガス(株)相談役・(財)京都大学教育研究振興財団会長
大南 正瑛	京都橘女子大学長
館 糾	鐘淵化学工業(株)相談役・(財)基礎化学研究所長
中川 久定	(財)国際高等研究所副所長
中坊 公平	弁護士
中村 桂子	JT 生命誌研究館副館長
米沢富美子	慶應義塾大学理工学部教授
印は委員長 (敬称略・50音順)	
所属は4月1日現在	

今回のテーマ：グローバル化と京都大学の在り方について

主な意見

世界の大学を目指して

近代化、高度成長などを経て欧米諸国のキャッチアップの時代は終わった。京都大学は、世界のトップ大学を目指して欲しい。

近年、京都大学は、社会健康医学講座や事業創成講座などを設けたりして、明らかに新しい大学になろうという意図があることが分かる。今後、大学全体として総合的な理念とそれに基づく展望を打ち出し、日本のリーダーとなっていっていただきたい。

京都大学の特徴

京都大学の教育・研究活動の成果と質が、国際水準において問われている。京都大学の特徴を發揮しつつ、世界をリードする大学として活躍してほしい。

国際化が進むなかで、個々の大学がフルセット完結型からネットワーク型の大学へ転換せざるを

得ない。内外の高等教育機関とネットワーク化を図るなかで、自己の限られた資源を最も得意とする教育・研究分野に投入していかないと京都大学は「個性の輝ける大学」にはならない。

京都大学として何がオンリーワンなのか、何が際だった特色なのかを考えると、1つは、学問の自由という歴史的な足跡があり、もう1つは、新しい学問を創造するチャレンジ精神がある。これを大切にし、さらに伸ばしていくことが重要である。また、京都の街は、大学の街といわれており、京都大学を始めとするアカデミックフリーダムがあり、更に学生が元気を持っているということがあるので、こうした恵まれた環境、資産、伝統を生かすべきである。

大学の街に

国際的な大学になるためには、やはり大学を支える街があるということが重要な要素だと思う。欧米の大学との違いは、我が国にはいわゆる大学都市がないことであり、日本で大学都市を形成で

きるのは京都しかない。京都だけではなく関西という、京都大学を中心とした広い範囲にわたる大学の街づくりの核になってほしい。

京都の街全体が大学の街という雰囲気がある。学生が京都の街を闊歩して、それを街の人々が暖かく迎えて育て上げる環境があり、そういった人間同士のふれあいを通じて学生の人格を作り上げていくという良き伝統をいつまでも残して欲しい。

教官の在り方

若い研究者と半年くらい一緒に研究すれば、この人はどういう人か、どう伸びてゆくか、将来はどうかなど、だいたいのことは分かる。評価は大事だが、あまりシステムティックに、人間的要素を排して行われるようになると恐ろしいと思う。研究者の評価に当たっては内面的な人対人の評価を大事にしていきたい。

危機管理における教官の在り方の検討が必要である。仲間内の論理でものを終えようとしたり、外部の意見を聞かないということでは独善に終わってしまう。

国立大学は、税金でまかなわれているのだから、大学の教官は、教育・研究活動はもちろん、大学のあらゆる活動のあり方を考える際にそのことをもっと認識してほしい。

教官も経営的感覚を

かつては企業と大学が協力してはいけなような雰囲気があったが、今は、大学の知的資産の産

業界への移転促進のための立法が行われたり、独法化の議論が起きるなど大学を取り巻く環境は大きく変わってきている。新しい環境にあった運営をすべきであり、教官も経営的な感覚を持つべきだと思う。

もっと教育に力を

大学では、教育に対する評価がきちんと行われていない。大学は、基本的に人材育成のための機関であり、もっと教育に力を入れるべきである。とくに、18歳人口の減少や大学に対する社会的期待の高まりなどから競争的環境が激化する中で教育に対する評価をきちんと行う必要がある。

大学教育のあり方が専門分野の知識に偏っている。教養教育をもっと真剣に考えないと日本の大学は崩壊する。

大学では、非常に専門的に細分化した知識を中心に教えるが、全体を総合した、全体が見える形で教えていかないといけない。教える側の総合的な物の考え方が問われていると言える。

法律体系と実社会のつながりを併せて総合的に教える必要がある。

大学院では、教育が教官の研究テーマと一体化しているため、教育がおろそかにされている傾向があるのではないかと。

留学生の受入拡大を

留学生の受入拡大に努力してほしい。質の良い留学生を受入れ、その人たちが、京都大学をどのように評価をしているかを聞くべきではないかと。

国際融合創造センターの設置

国際融合創造センター（International Innovation Center、センター長：松重和美工学研究科教授）は、京都大学の知の結集・情報発信センターとして平成13年4月に新たに設置された部局で、学内外の研究者と企業その他の機関を仲介するほか、共同研究のコーディネートなどにあたる「融合部門」と、ナノ

テクノロジー、量子理工学、環境・エネルギーなど、これからの時代を切り開く先端的研究を展開する「創造部門」から成ります。平成13年6月現在のスタッフは教官16（センター長1、教授6、併任教授1、客員教授3、助教授4、助手1）、研究支援推進員1、事務補佐員1で、教官研究室、実験室を含

むオフィスを工学部4号館3階・4階に設営中です。

京都大学は明治30（1897）年の創立以来、数多の輝かしい学問的成果をあげるとともに、多大な社会的貢献をしてきました。しかし、学問に対する支援のあり方が変容していく現代社会にあって、本学も新たな存立基盤を模索する時期を迎えています。そこで本センターでは、産業界を含む社会全体の学問的ニーズ/シーズと京都大学の理論的、技術的蓄積の積極的交流を推進し、その中から追求すべき研究テーマを見出していくための仕組みづくりに努めます。また、異なる専門分野の融合や国際的・地域的連携による新しい学問領域の創出、文系理系あらゆる分野の教官・大学院生などによるベンチャー起業、NPO 立ち上げの支援などを通して、本学がその中心に位置する「知的創造アライアンス」の構築を提案していきます。

京都大学国際融合創造センター（京大IIC）は平成13年7月に本格的活動を開始します。活動内容に

ついては、当センターのWeb サイトでも紹介しています（<http://www.iic.kyoto-u.ac.jp/>）。



（国際融合創造センター）

部局の動き

防災研究所創立50周年記念式典・祝賀会

防災研究所は、4月18日（水）午後5時からリーガロイヤルホテル京都において、創立50周年を記念して式典・祝賀会を開催した。

記念式典では、池淵周一所長がその式辞の中で、50年にわたる発展の経緯を述べるとともに、今後とも所員一同、防災学の研究と教育に邁進する覚悟であることを披瀝した。その後、町村信孝文部科学大臣（本間 実文部科学省研究振興局学術機関課研究調整官代読）、長尾 真総長、文部科学省所轄並びに国立大学附置研究所長会議第一部会長吉村太彦東京大学宇宙線研究所長から祝辞があり、続いて木村 孟大学評価・学位授与機構長、貝原俊民兵庫県知事をはじめ多数の関係者から寄せられた祝電が披露された。また、式典最後には池淵所長により「21世紀の災害とその研究」と題する記念講演が行われた。

その後、引き続き祝賀会が開催され、荻野文丸工

学研究科長、加藤重樹理学研究科長、山下輝夫東京大学地震研究所長の祝辞の後、中島暢太郎京都大学名誉教授の発声により乾杯が行われた。

なお、記念式典には約270人、記念祝賀会には約250人の学内外研究者や関係者等の出席があった。



（防災研究所）

日誌 2001.4.1 ~ 4.30

- | | | | |
|------|----------------|-----|---|
| 4月6日 | 入学式（医療技術短期大学部） | 17日 | スウェーデン Gustaf LINDENCRONA
ストックホルム大学長他6人来学，総長
他と懇談 |
| " | 名誉教授称号授与式 | 18日 | 国際交流委員会 |
| 9日 | 学生部委員会 | 20日 | 同和・人権問題委員会 |
| 10日 | 評議会 | " | 総長，アメリカ合衆国，中華人民共和国
及びフランス共和国を訪問（5月4日まで） |
| " | 将来構想検討委員会 | 24日 | 環境保全委員会 |
| 11日 | 学部入学式 | | |
| " | 大学院入学式 | | |
| 16日 | 広報委員会 | | |

栄誉

本庶 佑医学研究科教授が米国科学アカデミー外国人会員に選ばれる

本庶 佑医学研究科教授が2001年5月1日付けで米国科学アカデミー（National Academy of Sciences）の外国人会員に選ばれました。

米国科学アカデミーは、1863年リンカーン大統領によって公認された自然科学から経済学まで含む広い領域の民間科学諮問機関で、その会員（現在、正会員1,874人）に選ばれることは米国の科学者にとって最大の栄誉とされています。正会員とは別に選挙権を持たない外国人会員325人が選出されており、その内170人以上がノーベル賞を受賞しています。以下に同教授の略歴、業績等を紹介します。

本庶 佑教授は、昭和41年京都大学医学部医学科を卒業，東京大学医学部助手，大阪大学医学部教授を経て，同59年より京都大学医学部教授に就任，医学第一講座を担任されました。



平成7年医学研究科教授に配置換となり，分子生体統御学講座分子生物学分野を担任され，現在に至っています。この間，平成8年から4年間医学研究科長・医学部長を務められました。

同教授は，多年にわたり，免疫学の研究・教育に努め，分子免疫学研究の幕開けとその後の研究展開において国際的に先導的な役割を果たされ，生体を防御する免疫系において，抗体の多様性がどのような仕組みによって生ずるのか，多様な抗体の産生に至る免疫細胞の分化，増殖はいかなる仕組みによるのか等の免疫学の中心的な課題に取り組み，それらの仕組みを世界に先駆けて明らかにされました。特に，抗体産生におけるクラス変換が抗体H鎖遺伝子の欠失を伴う特殊な反復配列を介した遺伝子組換えによって起こるというモデルを提唱し，自ら実証し

たことは免疫学における画期的な成果です。また，世界に先駆けてクラス変換の制御や免疫細胞の分化，増殖を制御するサイトカインIL-4及びIL-5の単離と機能の解析に成功されました。さらにRNA情報編集酵素AIDを単離し，これがクラス変換と体細胞突然変異の両者に不可欠であることを発見して，免疫系の多様化機構の解明に新たな突破口を開かれました。また，ヒト遺伝性免疫不全症の原因遺伝子がAIDであることを証明し，臨床医学的にも極めて重要な事実を明らかにされました。これらの成果は医学，生物学の多くの研究分野の発展にも多大な影響を与えているものです。

これらの業績に対し，昭和56年野口英世記念医学賞，同57年朝日賞，同59年日本遺伝学会木原賞，同60年ベルツ賞，同63年武田医学賞，平成4年ベ-リング北里賞，同6年上原賞，同8年恩賜賞・日本学士院賞が授与され，昭和63年米国免疫学会名誉会員，平成3年フォガティースカラー（NIH）にも選出されています。さらに平成12年にはこれらの研究業績と学術発展への指導的活動が評価され，文化功労者として顕彰されました。（大学院医学研究科）

訃報

このたび、岡村誠三^{おかむらせいぞう}名誉教授が逝去されました。
ここに、謹んで哀悼の意を表します。
以下に同名誉教授の略歴、業績等を紹介しします。

岡村 誠三 名誉教授



岡村誠三先生は5月2日逝去された。享年87。

先生は、昭和12年京都帝国大学工学部工業化学科を卒業、同大学講師、助教授を経て同21年教授に就任、繊維化学科第3講座を担任され、ついで同36年繊維化学科の高分子化学科への改組により高分子合成講座を担任された。昭和52年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和40年から同42年まで評議員、また昭和43年から同47年まで原子炉実験所長として、大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は、昭和52年から同59年まで京都産業大学工学部教授を務められた。

先生は放射線化学、繊維化学、高分子合成などに関する研究において優れた研究業績を残され、それ

らの発展に寄与されるとともに、高分子化学の幅広い分野において多大の貢献をされた。主な著書に『ビニール系合成樹脂』、『放射線高分子化学』等がある。

また、日本放射線学会、高分子学会、日本化学会などにおいて、会長、副会長、支部長等の要職を歴任され、また、日本学術会議会員、国際純正応用化学連合日本代表委員等も務められた。これら一連の研究教育活動、学会活動により、昭和45年日本学士院賞・同恩賜賞、同52年スウェーデン国北極星章第一級ナイト章、同62年4月勲二等旭日重光章をはじめとする多くの賞と栄誉を受けられた。また昭和51年王立スウェーデン科学工学アカデミー正会員、平成2年日本学士院会員に選ばれた。

(大学院工学研究科)

随想

コミュニティ・カレッジ
—米国高等教育の一翼を担う

名誉教授 渡部 良久

2000年11月米国大統領選挙において、ゴア、ブッシュ両候補がしのぎを削った。その最大の争点のひとつが教育問題である。ブッシュ候補は「教育不況」という新語を編みだし、好景気の中で唯一置き去りにされた「教育」の改革を訴え、ゴア候補も教育改革を第一に掲げた。ここでいう改革の対象は、公立の小中高校教育である。両陣営がそろって「公教育の荒廃」を言うほど事は深刻であり、「米国の小中学校は行きつくところまで来てしまった」とも指摘されている。興味深いのは、両候



補の改革の方向は全く対照的であり、ゴア候補は、教員10万人増員などにより公教育の立て直しを目指し、ブッシュ候補は、生徒の学力を向上させられない公立学校の責任を問い、「脱公立化」を目指した。その結果、ブッシュ候補が僅差で激戦を制して、大統領に就任した。

ここで一瞬奇妙な思いにかられるのは、小中高校教育の荒廃の最中にあっても米国の高等教育には微塵の動揺の気配がみられないことである。米国の高等教育は70年代後半から量的拡大を続け、近年、大学院(70万人)、公立4年制大学(476万人)、私立4年制大学(242万人)に加えて公立2年制コミュ

ニティ・カレッジ（299万人）からなっている。括弧内の数字はフルタイムの在學生（1996年）の数を表し、合わせて1,087万人となり、パートタイムの学生を加えると総計は1,500万人（1996年）に達した。カレッジは、その在學生がフルタイムとパートタイム合わせて528万人を数え、米国高等教育の一翼を担っていることは明らかである。このような背景の下で、コミュニティ・カレッジに関する記事が、日本でも最近散見されるようになった。コミュニティ・カレッジは、米国高等教育の量的拡大に貢献し、一方では荒廃した小中高校教育を補完する役割も果たしているかのようである。1980年代に入って、米国は国づくりにおいて教育重視を鮮明にしているが、これほどまでの高等教育の拡大は、その成果の一つに数えられよう。最近、日本における高等教育の量的拡大の動きについて付言しよう。その一は、大学院30万人構想であり、その二は、学校教育法が急遽改正され、専門学校が高等教育機関として認められ、専門学校卒業後（70万人）大学三年次への編入の道が開けたことである。これによって、日本の高等教育機関在學生の数は、ようやく400万人を越えたのである。

日本には馴染みの少ないコミュニティ・カレッジについて、触れてみたい。20世紀初頭、教養教育重視のジュニア・カレッジとして発足した。第二次大戦後、大きな転機が訪れ、復員兵に高等教育機会を

広範に提供する受皿として登場し、さらに単なる短期高等教育機関としてではなく、コミュニティに奉仕する特異な役割が新たに付与されて、コミュニティ・カレッジの名称を与えられた。以来、その多様な役割として、4年制大学への編入、社会人教育、実践的職業教育、高等教育機会の広範な提供などが課せられている。公立として、授業料は廉価に設定され、「セカンドチャンス」を提供する趣旨のもと無選抜入学が許されている。今日、学力不足の学生への補習教育にまで手を染めている。特筆すべきことは、地域企業との連携による職業教育が積極的に実施されていることである。

日本における職業教育は、主に私立の専門学校などに委ねられてきた。職業訓練（教育）の本格的な取り組みは、昭和30年代労働省の手で始められた。石炭産業の衰退による炭坑離職者50万人を対象にして、雇用促進事業団（雇用・能力開発機構へ改組）が設立され、職業能力開発促進法が制定され、今日に及んでいる。この法律の名称を校名に用いた、公立の職業能力開発総合大学校、職業能力開発大学校（10校）並びに短期大学校（12校）が現在職業教育の第一線を担っている。私は、退官後の5年間、滋賀職業能力開発短期大学校に校長として勤務し、呻吟する「職業教育」に肌で触れる機会を得た。

（わたなべ よしひさ 元工学部教授

平成7年退官、専門は燃料化学）

お知らせ

「総合体育館附設プール」の夏季利用

総合体育館附設プールを下記の期間・時間にかぎり、本学の学生及び教職員向けに開放されます。

記

- | | | |
|-----|---|--|
| 1 期 | 間 | 7月1日（日）～8月31日（金）
（都合により利用できない日があります。） |
| 2 時 | 間 | 正午～午後2時 |
| 3 対 | 象 | 本学の学生及び教職員（学生証・職員証を呈示） |
| 4 問 | い | 学生部学生課（西部構内総合体育館内、電話学内 2590） |
| 5 所 | 他 | 利用にあたっては、必ず水泳帽を着用願います。 |

「白馬山の家」の夏季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、「白馬山の家」を、今年については下記のとおり開設されます。

この「山の家」は、中部山岳国立公園白馬山麓の^{つがひけ}梅池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、登山や避暑などに最適です。

建物は山小屋風の木造地上2階地下1階建てで、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室、地階が浴室、乾燥室からなっています。

記

- 1 名称 京都大学^{はくば}白馬山の家
- 2 所在地 長野県北安曇郡^{あずみ}小谷村^{おたり}大字千国字^{ちくに}柳久保乙869の2
(交通機関)
JR大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「^{おや}親の原^{はら}」下車、徒歩約20分
- 1 開設期間 7月10日(火)～8月30日(木)
- 4 収容人員 26人
- 5 所要経費 1人1泊 使用料120円、ほかに食費等実費
- 6 申込み及び問い合わせ先
体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話 学内2574)

「白浜海の家」の利用

本学の学生及び教職員の厚生施設として、「白浜海の家」を、下記のとおり1年を通じて開設されています。

この施設は、三段壁をはじめ千畳敷・円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、夏は海水浴に最適のところです。

また、「海の家」のある理学研究科附属瀬戸臨海実験所の構内には、500種以上の海の生物を集めた「京大白浜水族館」があり、近くには「南方熊楠記念館」もあります。(いずれも有料)

記

- 1 名称 京都大学白浜海の家
- 2 所在地 和歌山県西牟婁郡^{むろ}白浜町 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所構内
(交通機関)
JR紀勢本線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行きに乗車、終点で「臨海」行きバスに乗り換え、「臨海」で下車。
- 3 開設期間 通年開設
- 4 室数 和室3室
- 5 収容人員 30人
- 6 所要経費 1人1泊 使用料130円、ほかに食費等実費
- 7 申込み及び問い合わせ先
体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話 学内2574)

総合博物館一般公開始まる

総合博物館では、104年の伝統をもつ京都大学の研究・教育の成果を250万点以上の収蔵学術標本資料をもとに一堂に示す展示が完成し、6月1日一般向けに公開が始まりました。

記

- 1 開催時間 9:30～16:30(入場は16:00まで)
- 2 休館日 月・火曜日(平日祝日にかかわらず)、年末年始(12月28日～1月4日)
- 3 観覧料 一般400円、大・高校生300円、中・小学生200円
本学の学生・教職員は無料(学生証・職員証を呈示)
- 4 問い合わせ先 総合博物館 TEL 753-3272
詳細は総合博物館ホームページをご覧ください。
<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>



公開講座

理学研究科数学教室公開講座 現代数学展望

- 1 日 時：7月23日(月)～7月25日(水) 各日10:00～17:00
- 2 場 所：理学研究科数学教室第3講義室(1階南側)
- 3 演題及び講師：木を育てる話、薪割りと杭打ち
二項定理から始まる数学
カオスとフラクタル・力学系理論入門
理学研究科教授 三輪 哲二
理学研究科講師 加藤 文元
人間・環境学研究科助教授 木坂 正史
- 4 受講料：7,800円
- 5 申込期間：6月1日(金)～6月30日(土)
- 6 問い合わせ先：理学研究科数学教室「公開講座」係 TEL 753-3700
詳細は理学研究科数学教室ホームページをご覧ください。
<http://www.kusm.kyoto-u.ac.jp/koukai.html>

工学部公開講座 21世紀のくらしと科学技術 - ナノテクノロジーと地震工学 -

- 1 日 時：7月28日(土), 8月4日(土) 各日13:30~16:45
- 2 場 所：工学部物理系校舎313号室
- 3 演題及び講師：究極のモノづくり - ナノテクノロジーによる新材料創成 - 教授 平尾 一之
 新しい光ナノデバイス - 究極の光の制御を目指して - 教授 野田 進
 地震火災から文化財を守ろう - もう時間がない - 教授 土岐 憲三
 地震に弱い建物をなくすために
 - 阪神大震災のときの鋼構建造物の被害とその後の対策 - 教授 井上 一朗
 施設見学(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー, 土木百周年記念資料室)
- 4 受講料：4,800円
- 5 申込期間：6月14日(木)~7月13日(金)
- 6 問い合わせ先：工学部等総務課庶務掛公開講座係 TEL 753-5000
 詳細は工学部ホームページをご覧ください。
<http://www.kogaku.kyoto-u.ac.jp/kyomu/koukai/koukaikouza.htm>

数理解析研究所数学入門公開講座

- 1 日 時：8月6日(月)~8月10日(金) 各日10:30~16:00
- 2 場 所：数理解析研究所4階大講演室
- 3 演題及び講師：電気回路とランダムウォーク 助教授 熊谷 隆
 流体力学と流体数学 教授 岡本 久
 超弦理論の数学 助手 高橋 篤史
- 4 受講料：7,800円
- 5 申込期間：6月5日(火)~7月13日(金)
- 6 問い合わせ先：数理解析研究所「数学入門公開講座」係 TEL 753-7202
 詳細は数理解析研究所ホームページをご覧ください。
<http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/kenkyubu/kokai-koza/kokai-koza.html>